

■ グループ紹介

(株)日建設計・環境アセスメント室

1. はじめに

当社は昭和25年に建築設計と設計監理を業務として設立された。以後、昭和32年に土木部門が出来、昭和39年には業界に先がけてコンピュータの導入を果し、昭和40年には都市計画部門が設立され序々に総合コンサルタント事務所としての内容が充実されてきた。そして現在は、これを更に一步進めて総合エンジニアリングコンサルタント事務所として拡充しようとしている。筆者の所属する環境アセスメント室は、このような状況の基に昭和52年に発足したプロジェクトチームである。

2. 業務の内容

発足当時の国内の環境行政の状況は、国の法案が国会で論議を繰り返す中で川崎市が全国地方自治体に先がけて本格的環境影響評価条令を施行した時期であり、一方関係各省庁からも次々と要項や技術指針の案が発表されはじめると云った時期であった。そこで当室の第一の業務はこの環境影響評価業務を行うことであった。しかし、この環境影響評価に用いる予測や解析、評価の技術は種々の分野に応用できる技術である。そこで当室では、建築、土木、都市計画及び環境の各業務分野の辺際にあるいわゆる業際分野の仕事を取り込んだ総合的コンサルタントを業務とすることとし、今まで数々の環境アセスメント、プロジェクト・アセスメント、フィジビリティ・スタディ及びコンサルタント業務を遂行して来た。

3. 仕事の進め方

当室では、仕事の大小、内容に拘らずプロジェクトチーム制を施行している。これは内容の充実した質の高い技術サービスを提供するためであり、仕事の内容によっては、他の多くの部所にまたがるスタッフ編成も行っている。従って当室のスタッフは日頃から常にチームワークとシステムチックに物事を構成し解決に導くよう訓練を受けている。また難問に対しても恐れ

ることなく立ち向って行ける問題解決の手法と合理的な合意形成の手法を身につけるよう心掛けている。

4. エネルギー資源関連業務について

当室に於いてこれまで調査研究を行ったエネルギー資源関連業務については、業務の内容性質上正式名称は控えるが以下のような調査研究業務を行っている。ローカルエネルギー、自然エネルギー利用関連として地形因子分析による風力エネルギーの地理的分布予測、エネルギー関連としては、原子力利用における核燃料サイクルのバックエンドとしての高レベル廃棄物長期貯蔵に関する調査研究、原子力エネルギーセンターの地域社会に与える影響の評価、またローカルな資源の一部として一般廃棄物の最終処分場整備に関する基本計画調査等である。

建築、都市、地域に関する省エネルギーやエネルギーの有効利用についても、当社他部門に於て種々な業務が行われているがここでは割愛する。

5. おわりに

当室では今後、資源面では廃棄物のリサイクル、有効利用、その他の省資源等について、また、エネルギー面では廃熱の有効利用等について、技術の応用と総合化に取り組みたいと思っている。また、特に業際分野でのまとめのコンサルタント業務を推進して行き、引き続き有効で高質な技術サービスを提供して行く所存である。

所在地：〒162 東京都文京区後楽1-4-27

(文責：河村寛二)